

みんなでみんなのしあわせをつくる

—人生100年時代の生涯学習を考えるために—

牧野 篤
(東京大学大学院教育学研究科)

子ども・若者たちに希望を！

この社会を次の世代につなげる

みんながつくる〈社会〉へ

1. ある自治体「教育ビジョン2022」の考え方

現行ビジョン2012：区の目指す教育を実現するための指針

【目指す教育】 共に学び共に支え共に創る教育

【目指す人間像】 夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く人
「かかわり」を大切にし、地域・社会・自然と共に生きる人

【育みたい力】

- ①自分の持ち味を見つけ、自ら学び、考え、判断し、行動する力
- ②変化の時代をとらえ、たくましく生きる心と体の力
- ③豊かな感性を持ち、感動を分かちあう力
- ④他者の存在を認め、多様な関係を結ぶ力
- ⑤持続可能な社会を目指し、次代を共に支えていく力

【取組の視点】 基盤づくりから質の向上へ

- ①「学び」と「循環」の重視
- ②「連続性」と「きめ細かさ」の重視
- ③「かかわり」と「つながり」の重視

【取組の方向】

- ①子どもの豊かな人間性を育てる、より質の高い学校づくりを進めます
- ②家庭・地域・学校のつながりを重視した、共に支える教育を進めます
- ③地域とともに歩む「新たな公共空間」としての教育基盤を整えます
- ④生涯にわたる豊かな学びや文化・スポーツ活動を通じ、誰もが輝く地域づくりを進めます

新教育ビジョン2022：区民と区にとっての教育の基本的な考え方

【私たちが大切にしたい教育】 みんなのしあわせを創る杉並の教育

⇒「共に学び共に支え共に創る」を基盤に

みんながともに「教育を創る当事者」～子どももおとなもすべての人～

【共に尊重し大切にしたいこと】

◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる

◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる

◇誰もが社会の創り手として生きる

【一人ひとりが教育の当事者として心がける視点】

①子どもの思いを尊重する

②ちがいを受け入れる

③対話を大切にする

④学びの成果を贈り合う

⑤社会を創る当事者として考える

【教育行政の取組の方向性】

①「人生100年次代」を自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します

②誰ひとり取り残されない学びの環境を整えます

③学びの成果の贈り合いが広がるよう支援します

引き継がれたこと：共に学び共に支え共に創る⇒「共に」

大きく転換したこと：目指す教育像・人間像などゴールの設定をやめる
⇒「譲れない価値」をおく
主語を「私たち」「みんな」とする
区(行政)の指針⇒区民・区の考え方・よりどころ

大事にしたいこと：Sense of Wonder

多様性と共生

声を聞くこと 認めあうこと 受け入れあうこと

みんなが当事者であること

「共に」から(発展させて)「~し合う」へ

手続きの変更：

**審議過程で、子どもを含めた区民アンケートの実施
区民教育シンポジウム2020の開催
区民とくに子どもたちの声を聞く**

人からいわれてうれしい言葉：**ありがとう**

みんなが、みんなで、みんなのしあわせをつくる教育

2. 転換点の社会

世界的な課題を、直接、日常生活で引き受けなければならない時代

人生100年社会

**気候変動・感染症パンデミック・格差・貧困・孤立・人口構造の激変
Society 5.0・DXの進展・AIの急速な発達、そして戦争**

予測不可能な時代⇒内向化

国家という枠組みへの急激な回帰

Well-being

**←民主主義とは何か
価値選択を迫られる**

日本の政策的動向：コミュニティと学び直しが焦点化

総務省：地域運営組織

厚生労働省：地域共生社会づくり

文部科学省：コミュニティスクール・地域学校協働活動

経済産業省：STEAMライブラリー

農林水産省：農村まちづくり事業体

国土交通省：地域防災・ふるさと集落生活圏

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

安倍政権：人生100年時代構想会議

岸田政権：新しい資本主義実現会議

⇒学び直し・リスキリング

Well-being : 物質的な豊かさ・経済的豊かさ
意見表明・思想信条の自由・自己決定
⇒個人のしあわせを支える環境の持続的な豊かさ

参加・参画による社会づくり

For Allを基盤としたBy All

国家への回帰 に対する
〈ちいさな社会〉づくり **⇒ 民主主義を鍛える**
参加・参画

3. 焦点化される地域コミュニティと教育改革

新しい学習指導要領(2020年4月から)

体験と言語

質も量も（学校では終わらない）

言語能力を高めつつ、認知能力も非認知能力も

社会に開かれた教育課程
(2015年8月中教審教育課程企画特別部会)

学校は人生100年の初期20年しかかかわれない

コミュニティ・スクール
2015年中教審答申

*** アクティブラーニング**
(教員資質向上答申)

*** チーム学校**
(チーム学校答申)

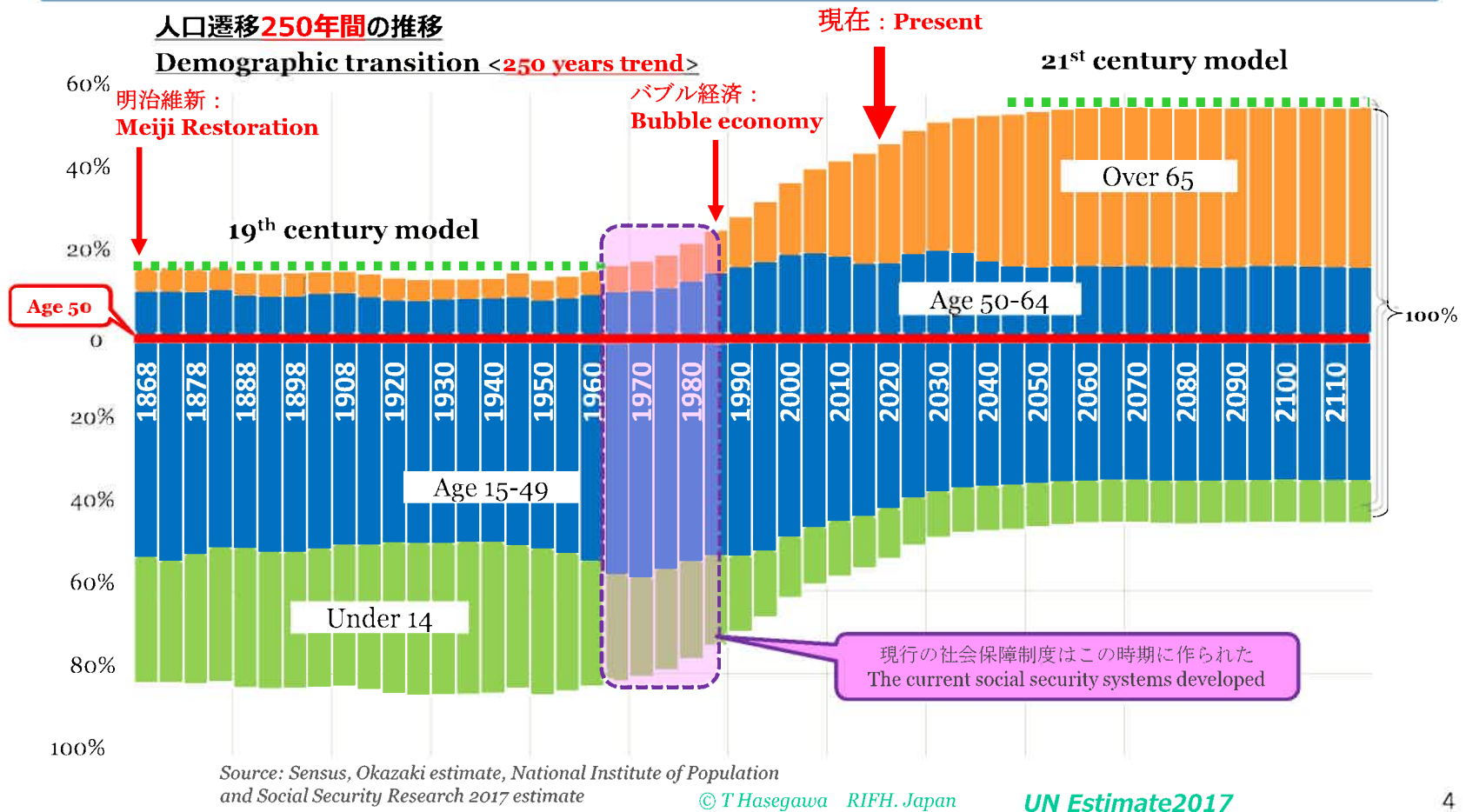
*** 地域学校協働活動・本部**
(地域学校協働答申)

学校と地域コミュニティが焦点化

4. 社会の構造転換

人口構造の遷移 Japan's demographic structure & transition

- There has been a **major shift in the population structure** from the 19th to the 21st century.
- It will be **impossible** to maintain the **social security systems** established in 1960-80s.



**少子高齢人口減少社会
(悲観論)
から
人生100年社会へ
(希望論)**

**高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる**

21世紀型スキル

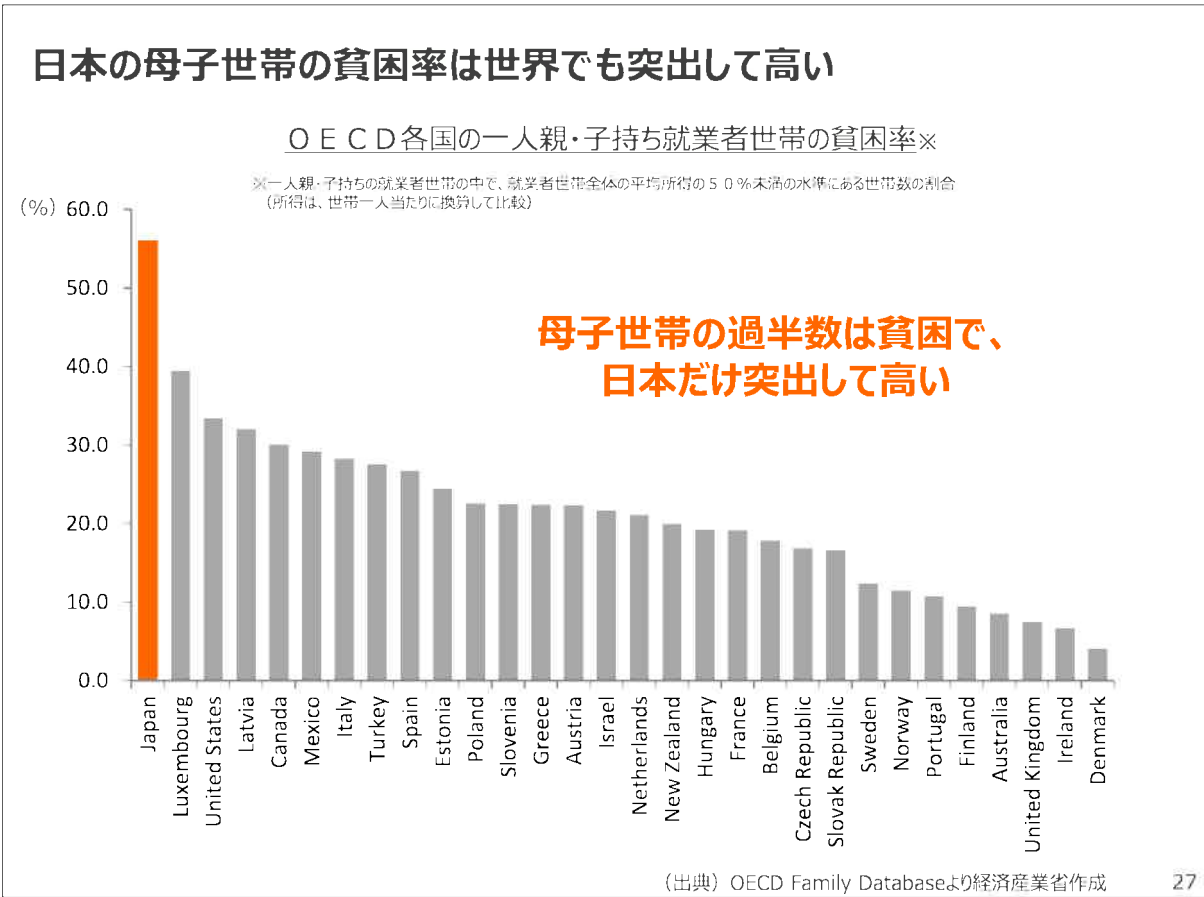
(アメリカの)小学校入学生の65パーセントは、
大学卒業後、今ない仕事に就いている。
(アメリカ・デューク大学キャシー・デビットソン)

現在の仕事は、2030年に50パーセントが自動化され、消える。
(オックスフォード大学)

だから、すべての子どもたちに、
豊かな「学び」の機会を保障すべき

- ・ 思考の方法—創造性、批判的思考、問題解決、意志決定と学習
- ・ 仕事の方法—コミュニケーションと協働
- ・ 仕事の道具—情報通信技術（ICT）と情報リテラシー
- ・ 世界で暮らすための技能—市民性、生活と職業、個人的および社会的責任

子どもの貧困



**子どもの
相対的貧困率：17%
ひとり親家庭：57%**

**「子ども食堂」
5000カ所**

http://www.meti.go.jp/committee/summary/eic0009/pdf/020_02_00.pdf

認知症高齢者数：

2012年に462万人

高齢者に占める割合15パーセント

予測では

2025年に730万人、20.6パーセント

2060年には1154万人、34.3パーセント

総人口の13パーセントを占める

MUFG「認知症の現状と将来推計」、

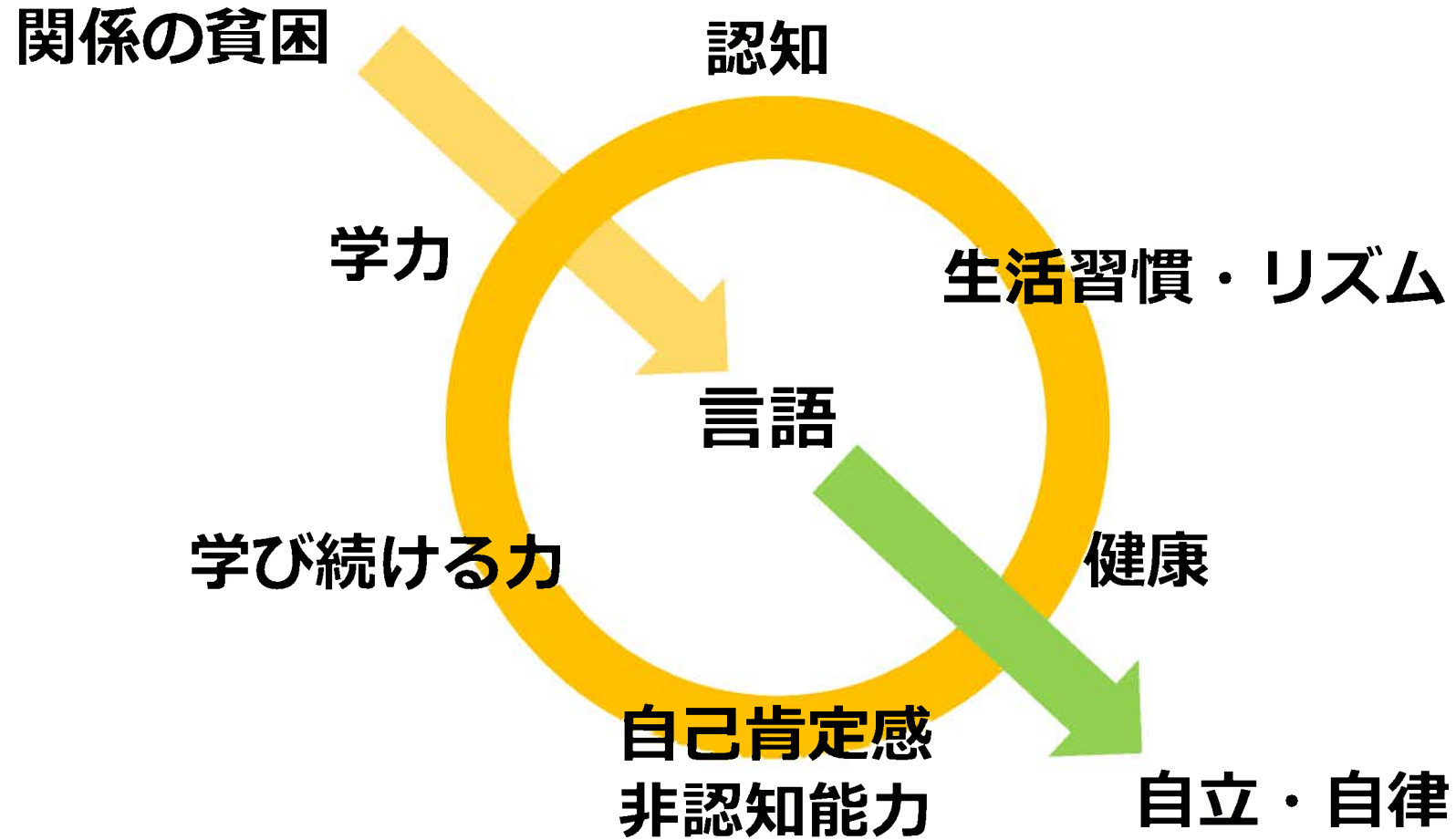
<https://www.tr.mufig.jp/shisan/mamori/dementia/>(2019年9月9日閲覧)

厚生労働省オレンジプランの推計

6. 子どもに必要な相互承認と対話的学び

**話せばわかってくれるという信頼感が
自己肯定感を強める**

社会に居場所ができる



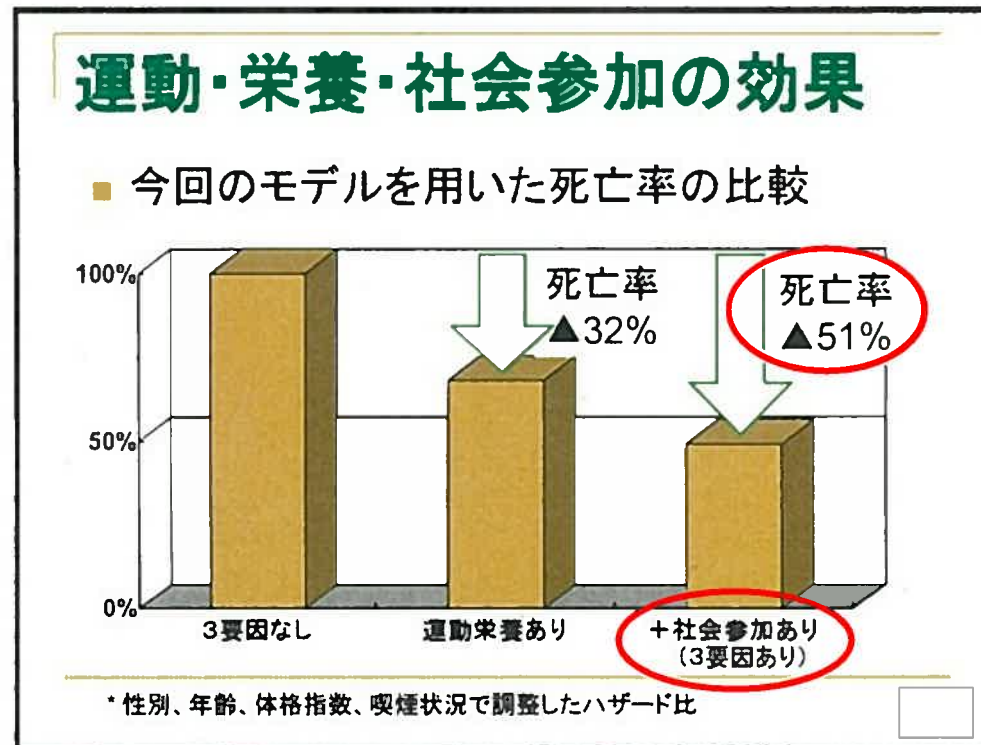
⇒子どもが自分から貧困から抜け出そうとする
自律・自立しようとする

7. どの世代にとっても必要な承認と肯定

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

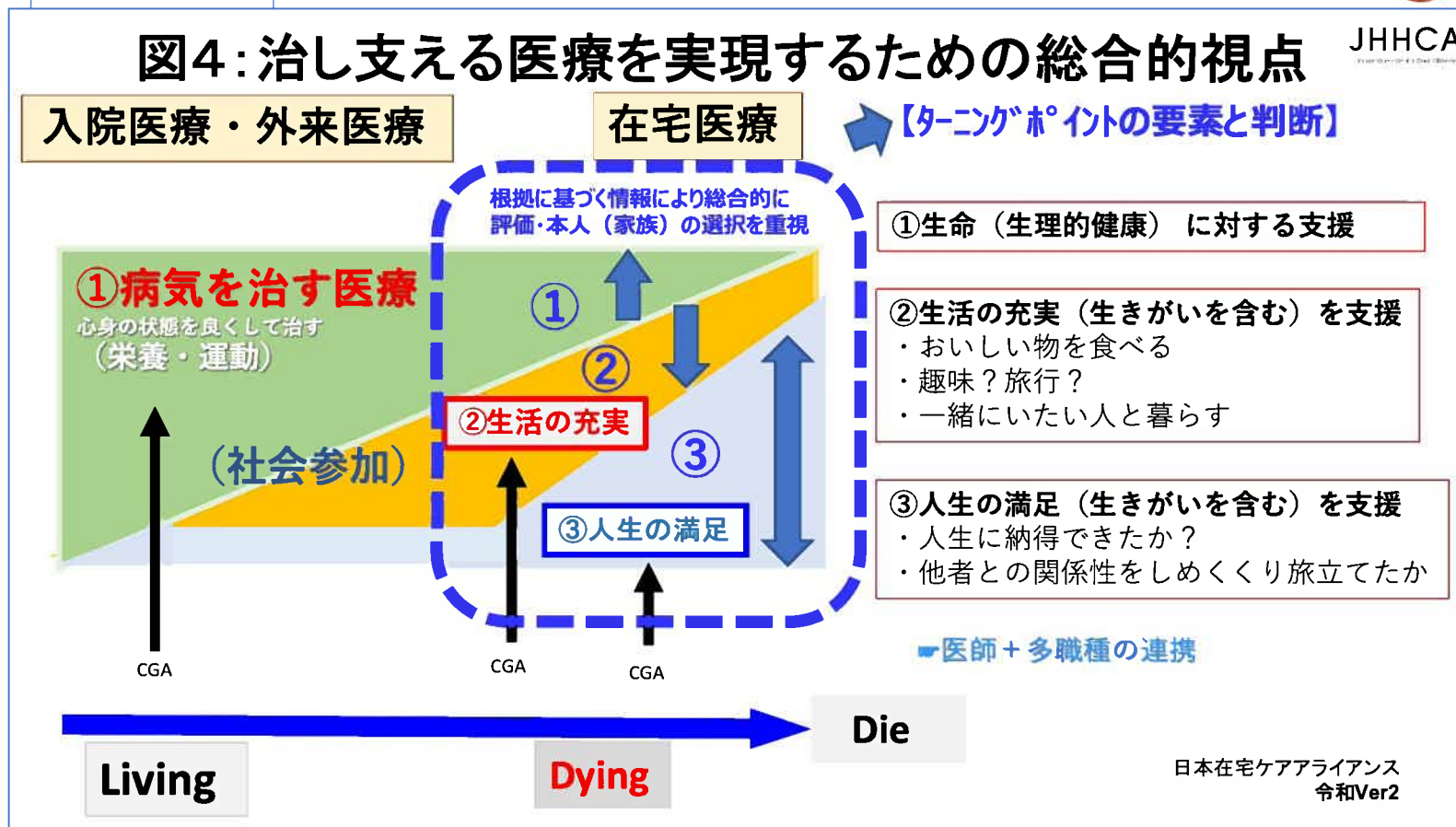
○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他



図4: 治し支える医療を実現するための総合的視点



武田俊彦「人生100年時代の医療と暮らし～いのちといきがいと人生～」、
(一財) 人生100年社会デザイン財団デザインフォーラム、20220316資料より

若者の移動の動向

**公民館など地域の活動に熱心に取り組む層には、
共通して15歳までの地域活動の分厚い体験がある**

(東京大学牧野研究室と飯田市公民館との2014-15年度共同研究)

若者の移動・コミュニティへの定着

利便性より自然環境

地域参加意識

競争より充実

自然相手の仕事

仕事が生活

→

受け入れられること

文化的なもの

地域社会重視

中山ちなみ「若者の地域移動と居住志向：生活意識に関する計量分析」、『京都社会学年報』第6巻、1998年

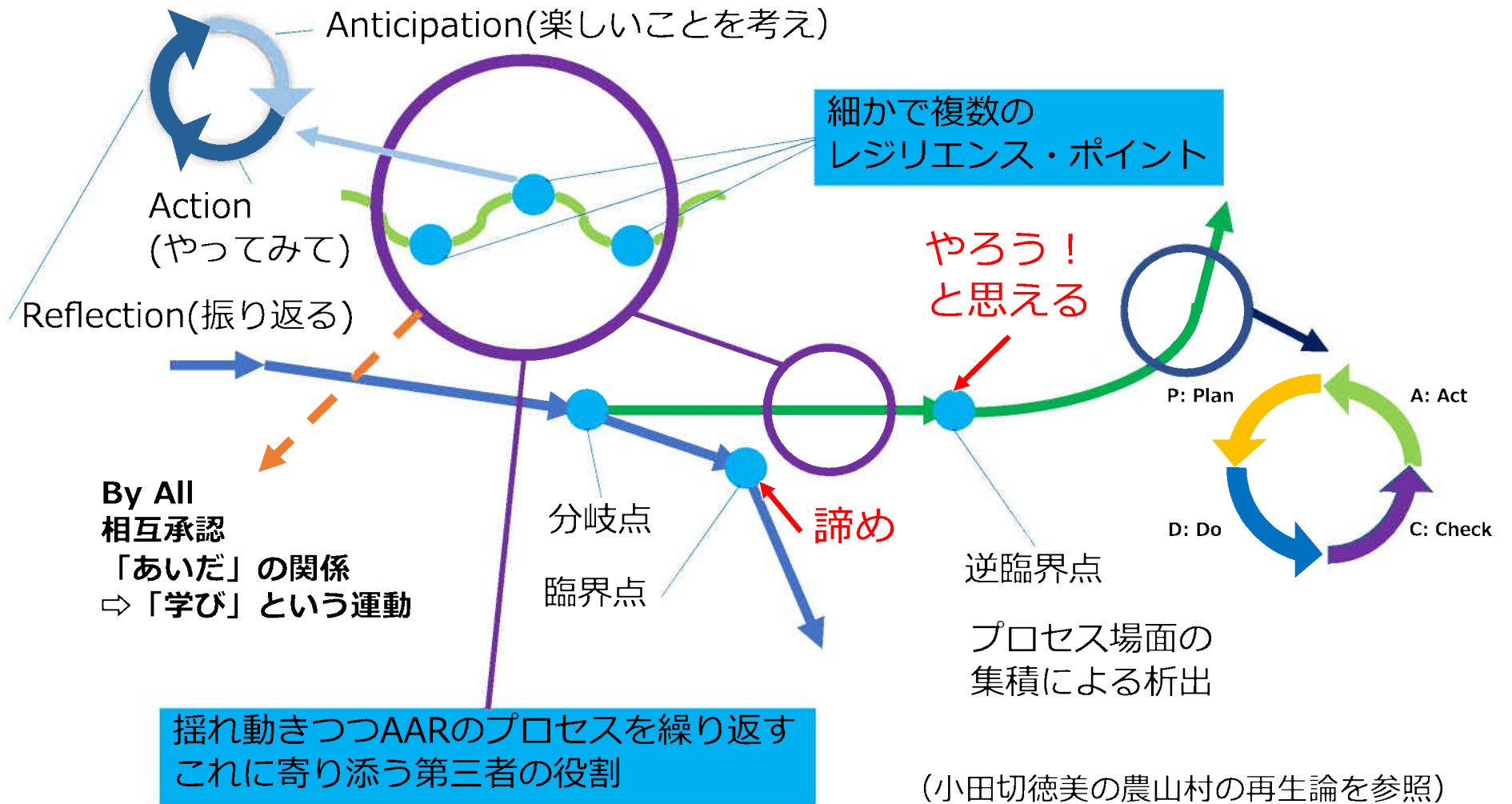
8. Sense of Wonderと「ことば」の力

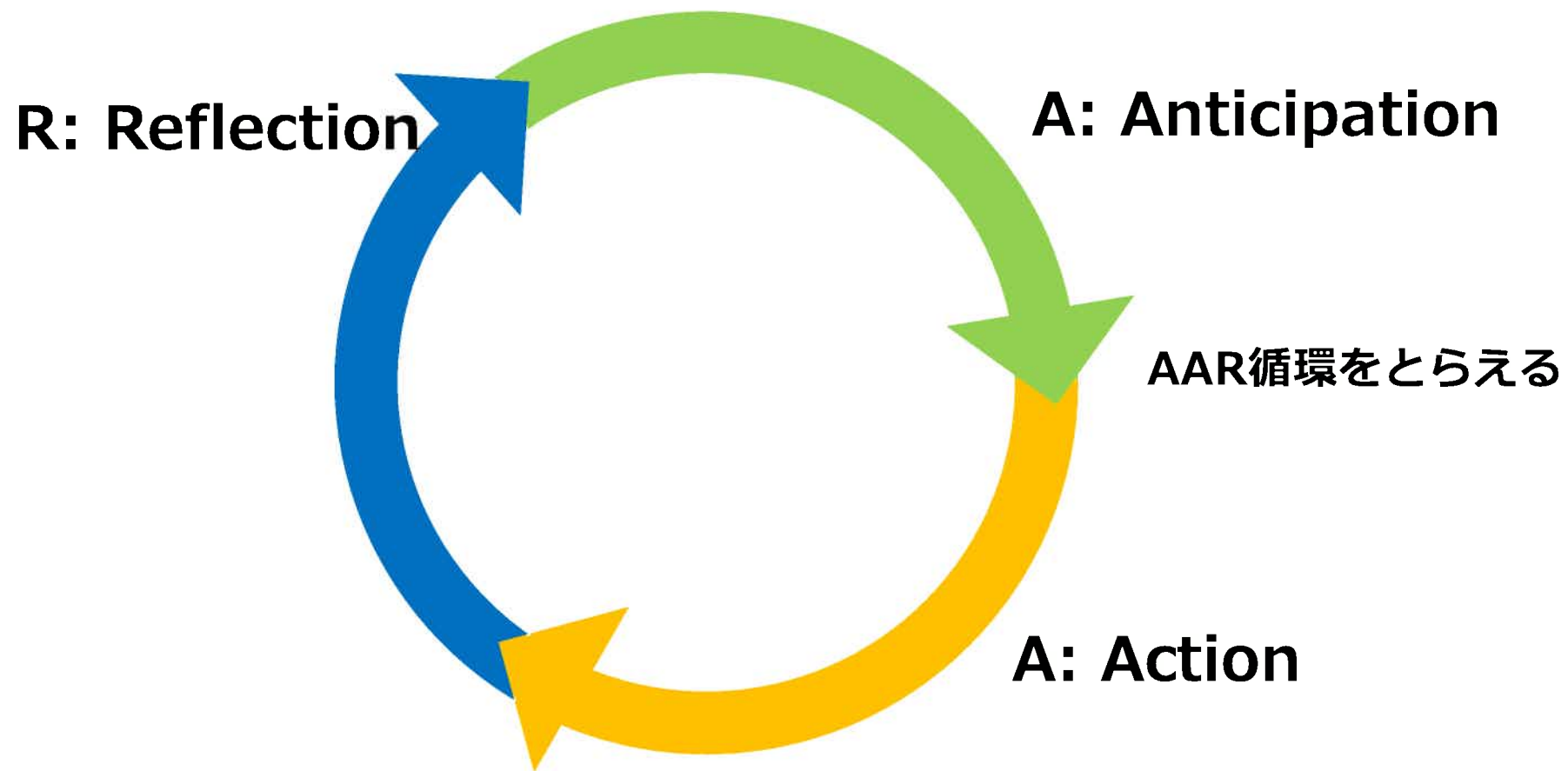
**相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる**

**人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる**

「ことば」を使いこなして「対話」する関係

**曖昧でゆるやかで、
関心をもつ人々が
多重に覆い被さることが必要**





参考：OECD Education 2030

Anticipation : 予期する・予測する

⇒何か「楽しいこと・愉しいこと」
を考えてウキウキする

Action : やってみる

Reflection : 振り返る

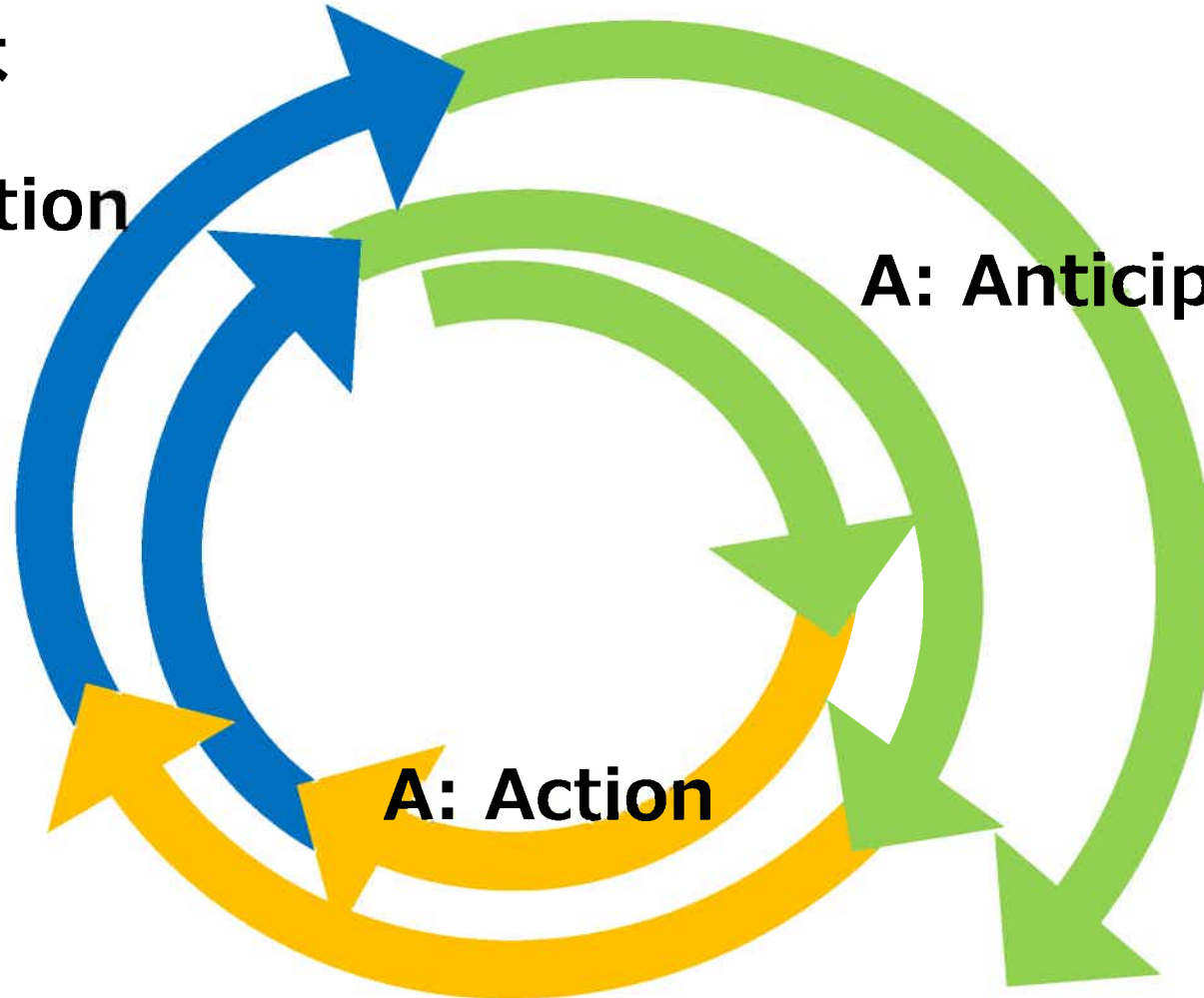
⇒評価しない
振り返って、さらにAnticipation
どんどん多様になる

実際は

R: Reflection

A: Anticipation

A: Action



**センス・オブ・ワンダー (Sense of Wonder)
が駆動するAAR循環**

子どもたちのセンス・オブ・ワンダーを守ること

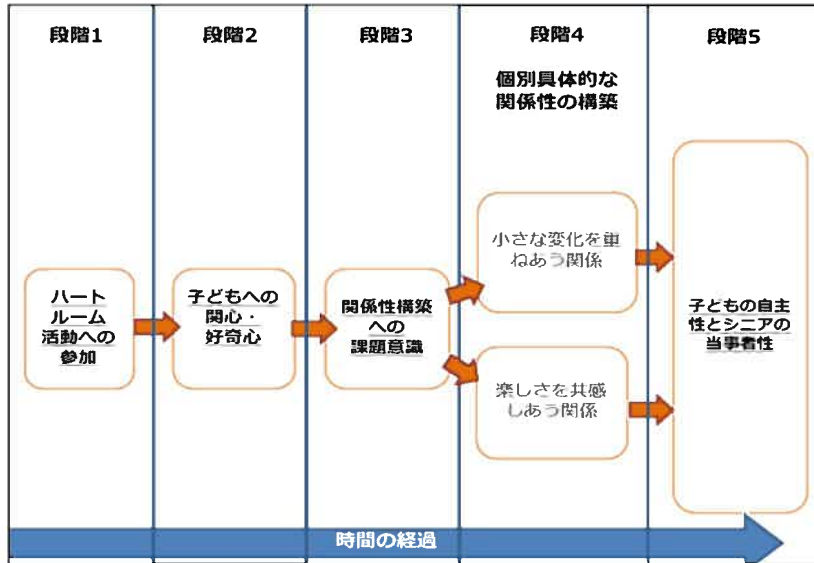
コミュニティはAAR循環をつくりだす「場」

空間だけではなく、
人々がともに生きる「運動」としてのコミュニティへ

「運動」を駆動するSense of Wonder

9. BY ALL (みんなで) へ

高齢者と子ども双方に信頼感にもとづく変化が



住民によるマスクづくり



子どもたちによる 高齢者へのマスクづくりと寄贈



子どもたちが自分の生活や社会の当事者となる

高齢者が伴走することで、高齢者自身が主役となる

**「学び」 = 「よきこと」 に気づき、実践する
⇒ 社会に「共通善」を実践する営み**

これからの教育 = 「学び」 を「公共財」として実装する事業

学ばないではいけない社会へ

生涯学習（学び続ける）社会へ

10. みんなが主役の社会へ

- Unmute 対話しよう
- Unlearn 学びほぐそう
 - ⇒ Relearn 学び続けよう
- Unlocked 新しい自分とみんなを発見し続けよう

- AAR cycle まずは、やってみよう

- 生活の「底」における主観の普遍性
 - 内容の定義不可能性と形式の普遍性 ⇒ 〈関係態〉
 - 指標化・標準化不可能だからこそ共有できる

自分が変わると、社会が変わる

**人生100年時代を生きぬく
「学び続ける力」を子ども・若者・すべての世代に**

**Sense of Wonderを引き出し
Sense of Wonderが駆動する
人生100年へ**